# （仮称）江東区生物多様性地域戦略（素案）概要

資料 5-2

## 第１章 （仮称）江東区生物多様性地域戦略の背景と概要

### 生物多様性について

**【生物多様性とは】**

「様々な生きものが存在し、全ての生きものがつながり調和していること」であり、生物多様性には3つの視点がある。

○ ３つの視点

【種の多様性】
生きものの種類

【遺伝子の多様性】
種類の中の多様な個性

【生態系の多様性】
山、海などの多様な環境

**【生物多様性の恵み】**

私たちの暮らしは、生物多様性の４つの恵み（生態系サービス）により支えられている。

○ 生態系サービス

【供給サービス】
食品など

【文化的サービス】
レクレーションなど

【調整サービス】
災害軽減など

【基盤サービス】
酸素供給など

**【生物多様性の危機】**

生物多様性は４つの危機に直面しており、都市部での活動も直接的・間接的な影響を生物多様性に及ぼしている。

○ 直接的影響

【第１の危機】開発等の人間活動による影響

【第２の危機】自然に対する働きかけの縮小による影響

【第３の危機】人間により持ち込まれたものによる影響

【第４の危機】地球環境の変化による影響

○ 間接的影響

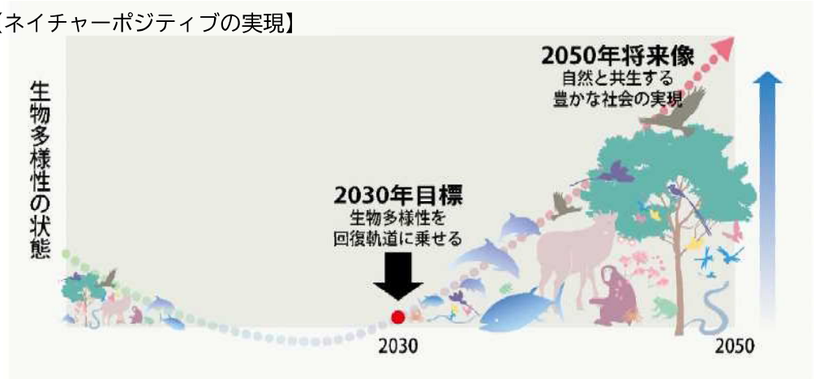
都市に住む人たちの消費活動により、遠く離れた地域の自然や生きものに影響を与えること。

### 生物多様性に関する国内外の動き

**【世界・日本・東京都の動向】**

令和 4(2022)年には、「昆明(こんめい)・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、この枠組で「2050 年ビジョン：自然と共生する世界の実現」および「2030 年ミッション：ネイチャーポジティブの実現」が掲げられた。これを受けて、国および東京都においても戦略が策定され、目標達成に向けた取組が進められている。

【ネイチャーポジティブの実現】




### （仮称）江東区生物多様性地域戦略の概要

**【江東区で本戦略を策定する意義】**

江東区は東京湾や隅田川、荒川に囲まれ、水辺に恵まれた地理的特徴を持っており、区内には多くの生きものが生息・生育し、様々な恵みを受けている。

生物多様性の恩恵による区民一人ひとりのウェルビーイングの更なる向上のため、また、生物多様性の様々な課題に対応し、持続可能で魅力あるまちづくりを進めるため、生物多様性地域戦略を策定する。

## 第２章 江東区の生物多様性

### 江東区の地理特徴と生態系

**【地形と位置】**

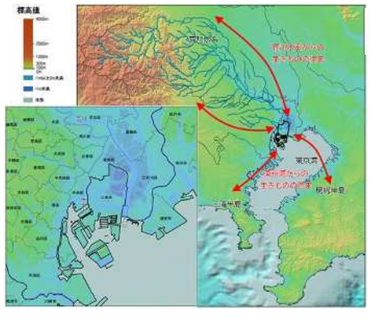
江東区は東京湾に面するとともに荒川、隅田川に囲まれた低地であり、周辺の陸や川、海を通じて生きものが往来している。

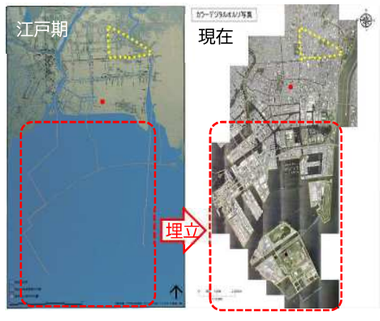
**【土地利用の変遷】**

江戸時代には湿地や干潟が広がり、農業・漁業・木材業が盛んであったが、明治時代以降は埋立が進み、工業化や宅地化が進展した。

**【生物相の概況】**

区内には多様な水辺や緑地が広がり、２，５００種以上の生きものが確認されている一方で、人間活動の影響等による外来種も確認されている。





ポケットエコスペース

新砂干潟

シオカラトンボ

ナガエツルノゲイトウ
（特定外来生物）

### 江東区における生態系サービス

**【供給サービス】**

江戸時代では、江戸前の食である深川めしや江戸東京野菜等の恵みを受けてきた。現代では、食材等の多くを区外に依存している。

**【文化的サービス】**

江戸時代には、潮干狩りやフジ・ハギなどを楽しむ花文化があった。現代でもその文化は継承され、区民農園や釣り、探鳥会なども行われている。

**【調整サービス】**

ヒートアイランドの緩和や大気汚染・騒音の低減、水質浄化、水害の低減、延焼防止等、様々な自然の働きによって区民の暮らしが守られている。

**【基盤サービス】**

区内のポケットエコスペースや公園、河川・運河、干潟などの緑地や水辺は、生きものの生息・生育地であり、江東区の生態系を構成し、生態系サービスを支える基盤となっている。

### 江東区における生物多様性の現状と課題

江東区では、昔から多くの自然の恵みを受けてきたが、今では様々な原因によって生物多様性が危機的状況に直面している。これらの生物多様性の現状と課題を様々な視点から整理した。

**【直接的影響による課題】**

**【第１の危機】開発等の人間活動による影響**
例）水辺や緑地等の生息・生育地の不足 等

**【第２の危機】自然に対する働きかけの縮小による影響**
例）水辺や緑地等の生息・生育地の不足 等

**【第３の危機】人間により持ち込まれたものによる影響**
例）外来生物の管理の不足、ペットや園芸種の逸出 等

**【第４の危機】地球環境の変化による影響**
例）再エネ・省エネ化の不足、意識啓発の不足 等

**【間接的影響による課題】**

都市に住む人たちの買い物や消費活動が、遠く離れた地域の自然や生きものに影響を与えること。

**【自然共生による課題】**

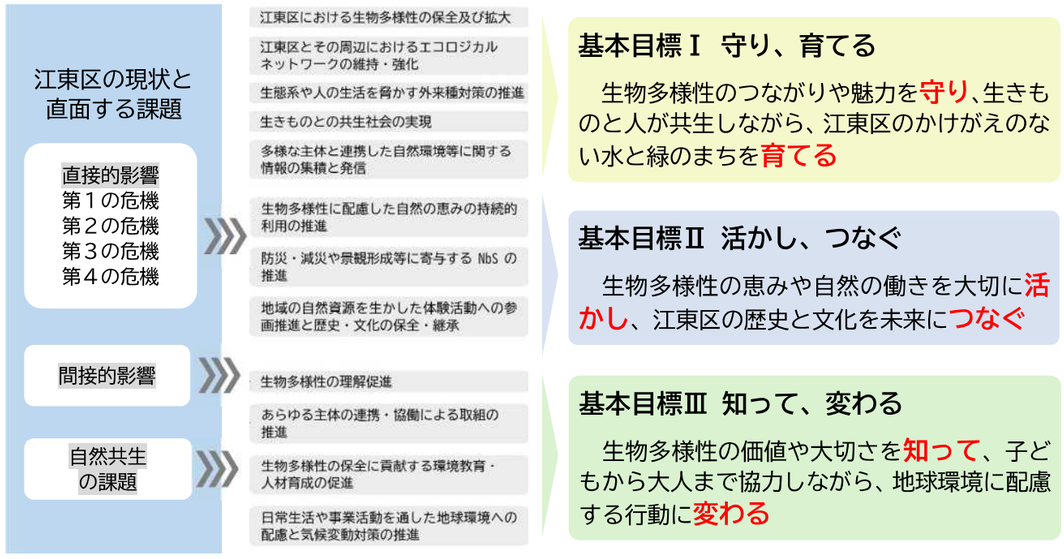
生きものによる暮らしへの負の影響
例）ウミネコやサギ類の騒音や糞害、カラスのゴミ漁り 等

## 第３章 戦略における将来像・目標

２０５０年の「自然共生社会の実現」に向け、国および東京都の戦略との整合を図りつつ、江東区の特徴を活かした将来像とし、２０３０年のネイチャーポジティブの実現を目指す。

**2050 年将来像（長期）**

**水と緑、過去と未来、生きものと人がつながる持続的な自然共生社会**




## 第４章 具体的な施策の内容

### 評価指標

２０３０年目標の達成に向け、評価指標を設定し達成状況の進行管理、評価を行う。

| 基本目標Ⅰ 守り、育てる | 基本目標Ⅱ 活かし、つなぐ | 基本目標Ⅲ 知って、変わる |
|---|---|---|
| 【評価指標】<br>・自然共生サイト認定数<br>・現地調査の重要種・在来種・特定外来生物の確認種数<br>・公共施設の緑化済み面積割合<br>・区民・事業者による新たな緑化面積 | 【評価指標】<br>・公共建築物等における木材利用推進の運用<br>・食育に関心がある人の割合<br>・雨水流出抑制対策量 | 【評価指標】<br>・生物多様性の内容を知っている区民の割合<br>・エコリーダー養成講座修了者数<br>・環境に配慮した行動に取り組む区民の割合<br>・事業系廃棄物の再利用率 |

### 施策の方向性（目指すべき方向性）

第３章にて解決すべき課題から見えてきた「目指すべき方向性」を、目標達成に向けた「施策の方向性」とした。

### 行動計画

目標達成に向けた「施策の方向性」に関連した具体的な取組事業。

| | 施策の方向性（目指すべき方向性） | 行動計画 |
|---|---|---|
| Ⅰ 守り、育てる | Ⅰ-1 江東区における生物多様性の保全及び拡大 | ポケットエコスペースの維持管理など |
| | Ⅰ-2 江東区とその周辺における エコロジカルネットワークの維持・強化 | 街路樹、公園、水辺・潮風の散歩道の緑地の維持管理・整備など |
| | Ⅰ-3 生態系や人の生活を脅かす外来種対策の推進 | 外来種の情報把握・発信・防除対策など |
| | Ⅰ-4 生きものとの共生社会の実現 | ウミネコ対策、飼育困難な動物の相談支援など |
| | Ⅰ-5 多様な主体と連携した自然環境等に関する情報の集積と発信 | 区民・児童生徒・民間団体等の協力による生物調査など |
| Ⅱ 活かし、つなぐ | Ⅱ-1 生物多様性に配慮した自然の恵みの持続的利用の推進（供給サービス） | 公共施設における木材の利用促進、食育の推進（食に関する知識向上）など |
| | Ⅱ-2 防災・減災や景観形成等に寄与する NbS の推進（調整サービス） | 緑化指導、雨水流出抑制対策指導など |
| | Ⅱ-3 地域の自然資源を活かした体験活動への参画推進と歴史・文化の保全・継承（文化的サービス） | 自然観察会の開催、森林再生ツアーへの参加など |
| Ⅲ 知って、変わる | Ⅲ-1 生物多様性の理解促進 | イベントやＳＮＳ等による生物多様性の情報発信など |
| | Ⅲ-2 あらゆる主体の連携・協働による取組の推進 | 生物多様性に関する会議体の実施など |
| | Ⅲ-3 生物多様性の保全に貢献する環境教育・人材育成の促進 | ポケットエコスペースを活用した学校教育など |
| | Ⅲ-4 日常生活や事業活動を通した地球環境への配慮と気候変動 対策の推進 | ５Ｒの推進についての普及・啓発など |

## 第５章 戦略の推進

### 推進体制

江東区、区民、民間団体、教育・研究機関、事業者など、各主体が連携・協働しながら取組を推進していく。

### 進行管理

ＰＤＣＡサイクルを実施し、スパイラルアップしていく進行管理とする。